

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。



ゼロカーボンの時代へ

校長 磯部 裕之

11月20日は、「世界子どもの日」。今年は、日本が子どもの権利条約を批准（ひじゅん；国として合意し、法的に受け入れること）して30年目の節目の年に当たります。丁度、この11月20日付けで、国際児童基金（ユニセフ）が「世界子供白書2024」を発表したという記事を新聞で見つけました。記事によると、「2050年の子どもたちは少子化や気候危機などにより脅威にさらされる」「2000年代と比べ2050年には、最大で8倍の子どもが深刻な熱波にさらされると予測する」とのことでした。2050年と言えば、あと26年後。今の小学生の子どもたちが、親世代・子育て世代になる頃です。ここ数年の地球温暖化のことを考えたとき、この予測は現実味をもって、私たちに強く訴えるものがあります。

このような昨今の異常気象の問題を受けて、新発田市は令和3年に「ゼロカーボンシティ宣言」を発表しています。2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すという宣言です。

この宣言に合わせて、市内の各学校も自校での取組を進めようということで、猿橋小学校では、今年度「グリーンカーテン」づくりに取り組みました。

夏になるとものすごく暑くなる螺旋階段を覆う形で育つように、中庭の芝生広場の一角にゴーヤの苗を環境美化委員会の皆さんが植えてくれました。葉が生い茂って広がるように、ネットを学務員さんが設置してくださいました。おかげで、夏には、涼しげな緑のカーテンが生い茂りました。

猿橋小学校では、ゼロカーボンと業務の効率化を目指して、校内の職員会議などの文書は、原則、紙での配付をやめ電子データでの配付に切り替えました。家庭向けの急ぎの連絡も「安心でんしょばと」を使ったメールでのお知らせが中心となっています。今後は、さらに、各種お便りや案内も、紙での配付と併せて、メールに添付する形でのデータ配付も検討しているところです。

先日、150周年記念式典を終えたばかりですが、まずは、次の25年後、できる限り現在の環境が維持されて、今の猿橋小の子どもたちのさらにその子どもたちの世代が、同じ猿橋小の芝生広場で走り回り、寝転んで笑い合えるような姿を思い描きたいと思います。

次の世代に向けて少しでも安心安全な環境を引き継ぐために、今、私たちができることをみんなで考え、小さな努力を重ねていくことが大切だと考えています。